

県内経済概況

2020年10月

2020年11月13日

株式会社 滋賀銀行
株式会社 しがぎん経済文化センター

《ご参考》
県内景気の変化方向と基調判断の推移

【県内景気天気図】		変 化 方 向																					基調判断	
		19.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	20.1	2	3	4	5	6	7	8	9	前月	今月
現在の景気	【変化方向】 ●＝前月比上昇・好転 ▲＝前月比横ばい ×＝前月比下降・悪化	▲	▲	×	▲	▲	●	▲	×	▲	▲	×	▲	×	×	×	×	×	×	●	●	▲	☁/☔	☁/☔
3か月後の景気		▲	▲	▲	×	×	×	×	▲	▲	×	▲	▲	×	×	×	×	▲	▲	●	●	▲	☁	☁
生産活動		●	●	×	▲	×	×	×	●	×	●	×	×	●	×	●	×	×	×	×	●	●	×	☁
個人消費	【基調判断】 ★（晴れ） ☔/☁（晴れ一部曇り） ☁（曇り） ☁/☔（曇り一部雨） ☔（雨）	▲	▲	×	●	●	●	●	×	●	●	×	×	×	●	×	×	▲	●	●	▲	▲	☁	☁
民間設備投資		●	●	●	×	×	●	●	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	▲	▲	▲	▲	☔	☔
住宅投資		×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	●	×	●	●	●	×	×	▲	▲	●	×	☁/☔	☁/☔
公共投資		●	×	×	×	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	×	▲	●	●	▲	☁	☁
雇用情勢		●	×	×	●	×	●	▲	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	●	×	☔	☔

【県内主要経済指標】		19.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	20.1	2	3	4	5	6	7	8	9
鉱工業生産指数	季調済・前月比	●	×	●	×	×	●	●	×	●	×	×	●	×	●	×	×	×	●	●	×	
常用労働者の賃金指数	名目・前年比	×	●	●	×	●	●	×	●	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	●	×	
百貨店・スーパー販売額	店舗調整前・前年比	×	×	×	×	×	●	×	×	●	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●	
家電大型専門店販売額	前年比	×	●	●	●	●	●	×	●	●	×	×	×	×	●	×	●	●	●	●	●	
ドラッグストア販売額	前年比	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ホームセンター販売額	前年比	×	×	×	×	●	●	×	●	●	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●	
コンビニエンスストア販売額	前年比	●	●	●	●	●	●	×	●	×	●	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×	
乗用車新車登録台数	2車種計・前年比	●	●	×	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
軽乗用車新車販売台数	前年比	×	●	×	●	●	×	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
民間非居住用建築物床面積	非居住用・前年比	●	×	×	×	×	●	●	●	×	×	×	●	×	●	●	×	×	×	×	×	×
トラック新車登録台数	2車種計・前年比	●	●	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
新設住宅着工戸数	前年比	×	×	×	×	×	●	●	×	●	×	●	×	●	●	●	×	×	×	×	●	×
公共工事請負金額	前年比	●	×	×	×	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	●	×	×	●	●	●
新規求人倍率(受理地別)	季調済・前月差	●	×	▲	●	×	●	●	×	×	●	×	●	×	●	×	×	×	×	●	●	×
有効求人倍率(受理地別)	季調済・前月差	●	×	×	●	×	●	▲	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	●	▲
有効求人倍率(就業地別)	季調済・前月差	●	●	×	●	×	●	▲	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	▲	▲
常用雇用指数	全産業・前年比	●	×	●	×	×	▲	×	●	×	●	×	●	×	●	×	●	●	×	●	●	
所定外労働時間指数	製造業・前年比	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
企業倒産	負債総額・前年比(逆)	●	×	●	●	●	●	×	●	●	●	●	●	×	●	×	×	●	×	●	×	×

●＝前年比・前月比プラス、▲＝同横ばい、×＝同マイナス。ただし、「企業倒産」は逆表示。

1. 概況…一部で持ち直しの動きがみられるものの、依然として厳しい状態にある

県内景気の現状

県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数でみると、前月に比べ電子部品・デバイスやその他の業種では上昇したものの、生産用機械や化学などで大幅に低下したため、全体では3か月ぶりに大幅に低下した。

需要面では、全店ベースの百貨店・スーパー販売額はウエイトの高い飲食料品をはじめ家庭用品や身の回り品、衣料品などが増加したため、全体では7か月連続で前年を上回っている。また、大型専門店などの他の小売業態の販売額は、コンビニエンスストアが6か月連続で減少しているものの、ドラッグストアは10か月連続、ホームセンターは7か月連続かつともに大幅増加、家電大型専門店も5か月連続で増加しているため、小売業6業態計の売上高は7か月連続で増加。これは、新型コロナウイルス対策のための衛生用品をはじめ、「新しい生活様式」に関連した家電機器やインテリア、ガーデニング用品などが好調に推移したためとみられる。一方、乗用車の新車登録台数と軽乗用車の販売台数は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家計収入の減少や将来不安などによる買い控えが続き、ともに12か月連続かつ大幅な減少となっている。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は6か月連続かつ大幅に減少し、新設住宅着工戸数も2か月ぶりに減少した。しかし、公共工事の請負金額は3か月連続で大幅に増加している。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は3か月ぶりに大幅低下し、有効求人倍率も5か月連続で1倍を下回っている。また、常用雇用指数は微増ながら2か月連続で上昇したが、製造業の所定外労働時間指数は19か月連続かつ大幅に低下している。

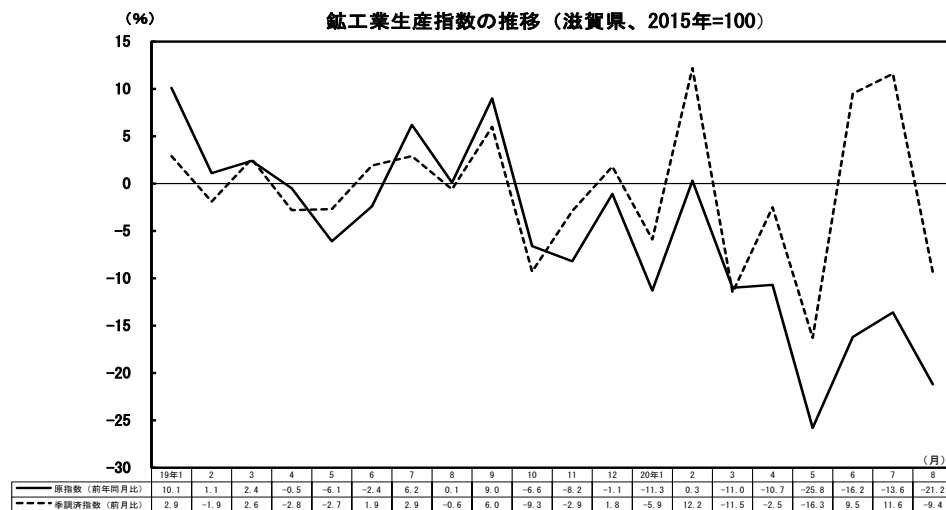
これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は持ち直しの動きがみられるものの伸び悩んでいる。需要面では、乗用車の登録・販売台数は引き続き前年を大幅に下回り、不振が続いているが、小売業の売上高は全体に堅調に推移しているため、個人消費としてみると持ち直しの動きが続いているとみられる。しかし、投資需要では公共投資は引き続き堅調に推移しているものの、民間設備投資と住宅投資は伸び悩んでいる。したがって県内景気の現状は、新型コロナウイルス感染症拡大の悪影響が続く中、一部で持ち直しの動きがみられるものの、依然として厳しい状態にある。

今後の景気動向

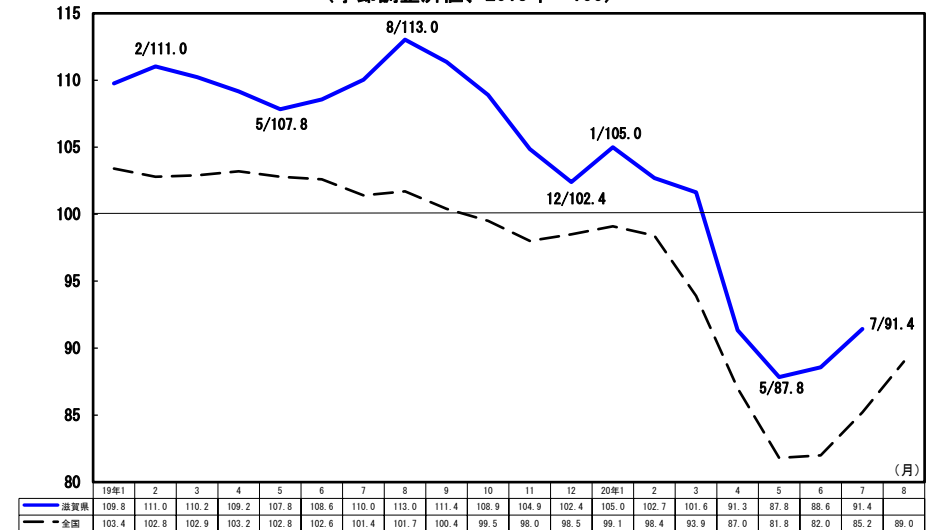
県内製造業の生産活動は、中国や米国の景気回復に伴う外需の回復に加え、内需の持ち直しにより、全体に堅調な動きが広がり、徐々に回復に向かうと思われる。また、個人消費については「新しい生活様式」関連の商品やサービスの需要が根強いいため、それに対応した業種、業態の業況の回復が全体をけん引し、緩やかながら回復基調に向かうと思われる。一方、民間設備投資や住宅投資などの投資需要は増加基調に転じるとみられるが、弱含みの低調な動きにとどまると考えられる。したがって今後の県内景気については、雇用情勢の回復の遅れや新型コロナウイルス再拡大の懸念などから、持ち直し傾向が続く中で弱含みの推移にとどまると考えられる。

2. 生産…「鉱工業生産指数」は両指数ともに大幅低下

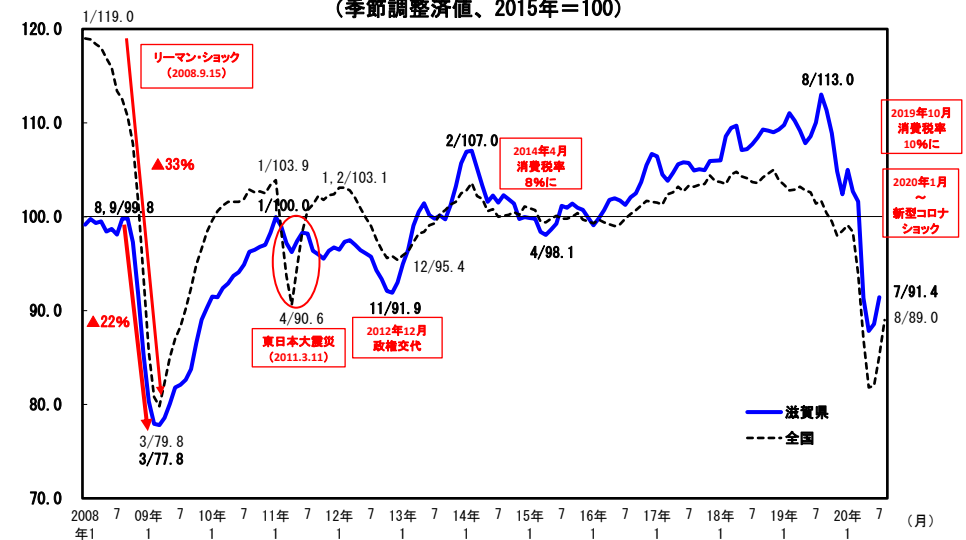
- ・鉱工業生産指数（2015年＝100）の「原指数」（2020年8月）は80.7、前年同月比－21.2％となり、6か月連続かつ大幅に低下し、「季節調整済指数」は88.7、前月比－9.4％で、3か月ぶりに大幅に低下した。しかし、季調済指数の3か月移動平均値（7月）は91.4、前月比＋3.2％となり、前月の大幅上昇により2か月連続で上昇した。今後の動向を注視する必要がある。
- ・業種別季調済指数の水準は、100の水準を上回ったのは「化学」（116.7）と「パルプ・紙・紙加工品」（105.6）のみで、「電子部品・デバイス」（54.7）や「窯業・土石製品」（59.8）、「金属製品」（77.9）などは極めて低い水準で推移。
- ・前月と比較して高ウエイトで上昇したのは、「電子部品・デバイス」（前月比＋25.5％）や「その他」（同＋5.4％）など。一方、低下した業種は「生産用機械」（同－30.7％）や「化学」（同－8.6％、化粧品）など。
- ・「出荷指数」と「在庫指数（製品在庫）」は、出荷は11か月連続かつ大幅に低下（原指数79.3、前年同月比－20.4％）、在庫は高水準ながら2か月連続で低下（同112.8、同－4.3％）。業種別でみた在庫指数は「汎用・業務用機械」などで大幅上昇（同＋49.3％、うち業務用機械、同＋198.6％）したが、「輸送機械」などで大幅低下（同－71.0％）。



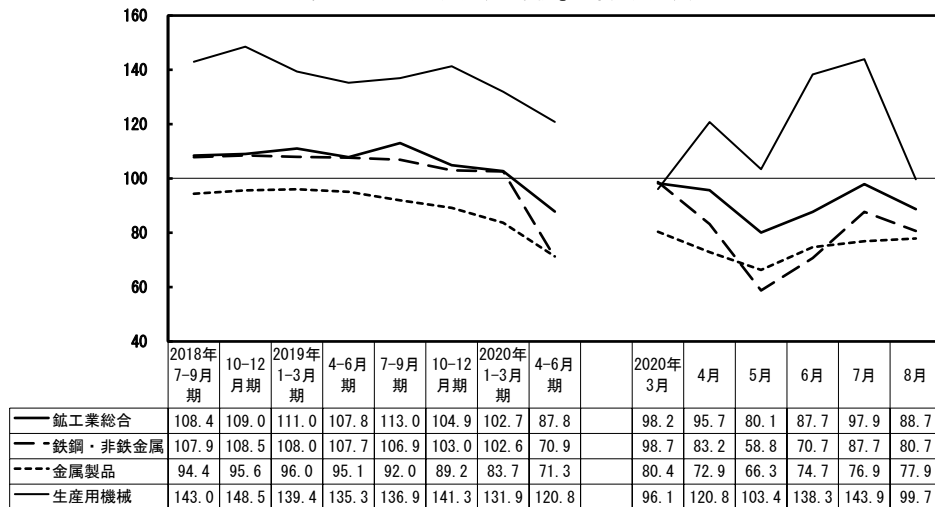
鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移①
（季節調整済値、2015年＝100）



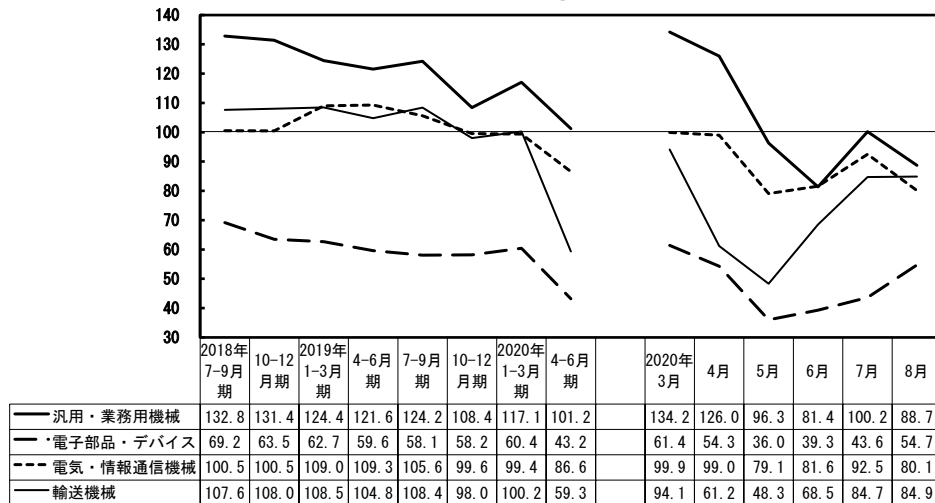
鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移②
（季節調整済値、2015年＝100）



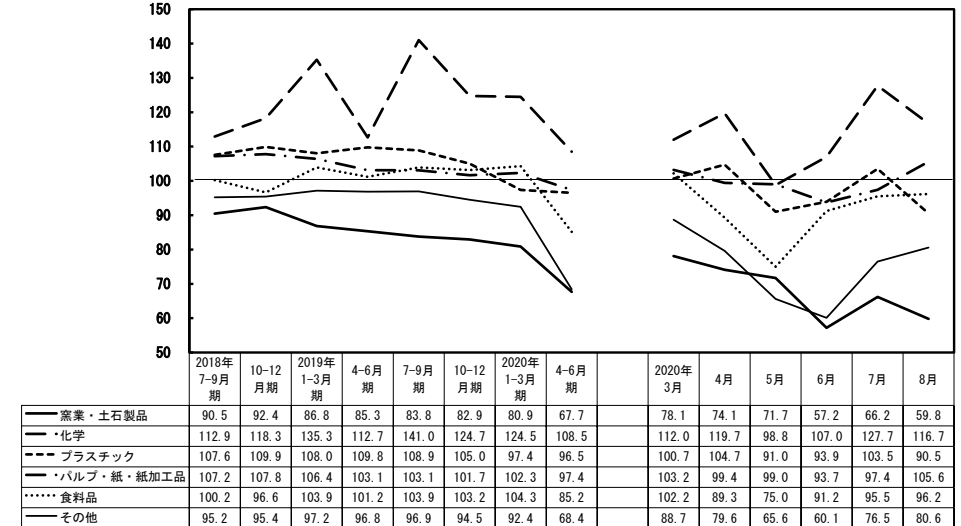
業種別の鉱工業生産指数の推移①（季調済指数、2015年＝100）



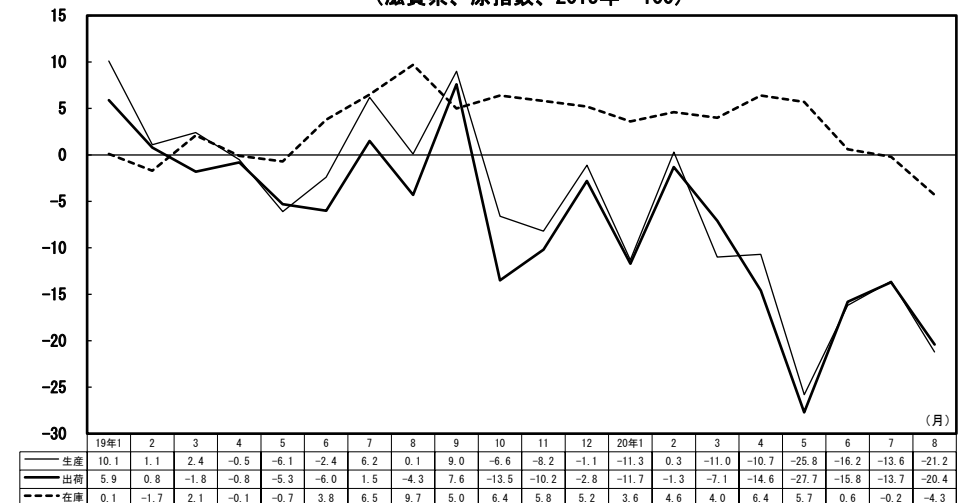
業種別の鉱工業生産指数の推移②（季調済指数、2015年＝100）



業種別の鉱工業生産指数の推移③（季調済指数、2015年＝100）



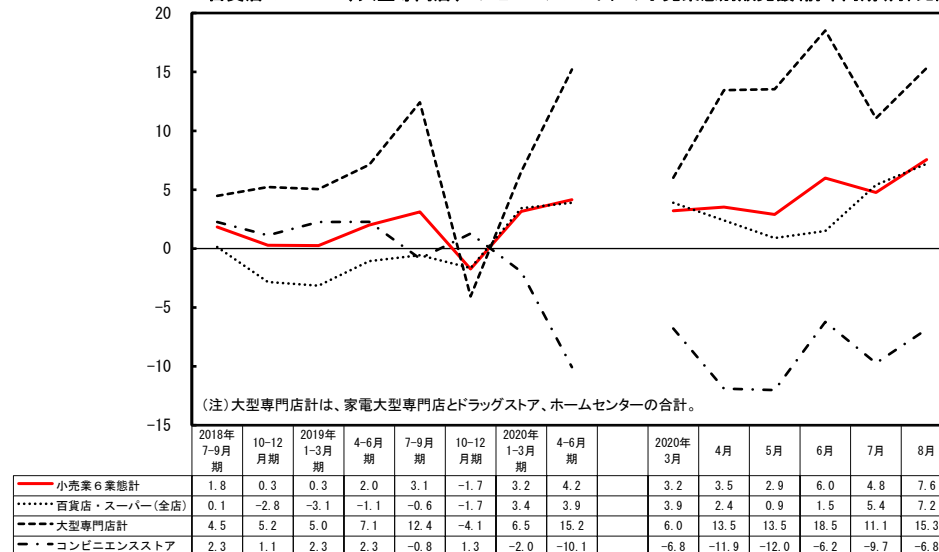
鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移
（滋賀県、原指数、2015年＝100）



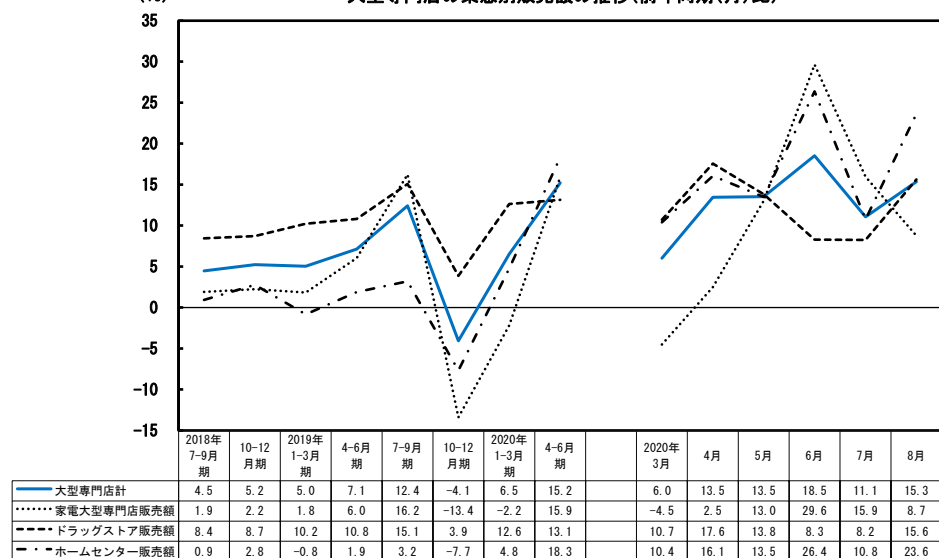
3. 個人消費…「小売業6業態計売上高」は7か月連続で増加

- ・「消費者物価指数（生鮮食品を除く総合／大津市／2015年＝100）」（20年9月）は101.5、前年同月比－0.6%、前月比－0.1%となり、前年同月比は6か月連続で低下、前月比でも4か月連続で低下。
- ・「可処分所得（大津市・勤労者世帯）」（8月）は11か月連続かつ大幅に増加した（前年同月比＋28.7%）。これは、前月に続き特別定額給付金（新型コロナウイルス感染症緊急経済対策関連）によるものとみられる。「家計消費支出（同）」は3か月ぶりに増加した（同＋3.4%）。
- ・「名目賃金指数（現金給与総額、事業所規模30人以上、2015年＝100）」（8月）は81.1、同－5.1%となり、「実質賃金指数」は79.3、同－4.8%で、ともに2か月ぶりに低下。
- ・「百貨店・スーパー販売額（全店ベース＝店舗調整前、対象102店舗）」（8月）は、24,792百万円、前年同月比＋7.2%となり7か月連続で増加している。品目別では、ウエイトの高い「飲食料品」は9か月連続で増加し（同＋6.2%）、「家庭用品」は3か月連続で大幅増加（同＋26.9%）、「身の回り品」も3か月連続かつ大幅増加（同＋43.9%）、「衣料品」は11か月ぶりに増加に転じた（同＋6.1%）。一方、「家電機器」は3か月ぶりに減少した（同－8.1%）。また、「既存店ベース（＝店舗調整後）」では4か月連続で増加（同＋8.4%）。品目別では「家電機器」（同－2.7%）を除き他の品目で増加し、なかでも「身の回り品」（同＋47.3%）や「家庭用品」（同＋31.9%）が大幅に増加し、「衣料品」は11か月ぶりに増加した（同＋8.2%）。これは、当月閉店した大津市にある百貨店の閉店セールの影響と考えられる。
- ・大型専門店では、ウエイトの高い「ドラッグストア」（全店ベース＝店舗調整前、8月、209店舗）は7,414百万円、同＋15.6%で10か月連続かつ大幅に増加、「ホームセンター」（同64店舗）は3,992百万円、同＋23.6%で7か月連続かつ大幅に増加し、「家電大型専門店」（同42店舗）も4,723百万円、同＋8.7%で5か月連続の増加。一方、「コンビニエンスストア」（同559店舗）は9,997百万円、同－6.8%となり6か月連続で減少している。
- ・これらの結果、「小売業6業態計売上高」（8月）は、50,918百万円、同＋7.6%となり7か月連続で増加している。これは、新型コロナウイルス対策のための衛生用品をはじめ、「新しい生活様式」に関連したエアコンや空気清浄機、冷蔵庫などの家電機器、家庭用調理器具やテレワーク用のインテリア、ガーデニング用品などが引き続き好調に推移したためとみられる。

(%) 百貨店・スーパー、大型専門店、コンビニエンスストアの小売業別販売額(前年同期(月)比)

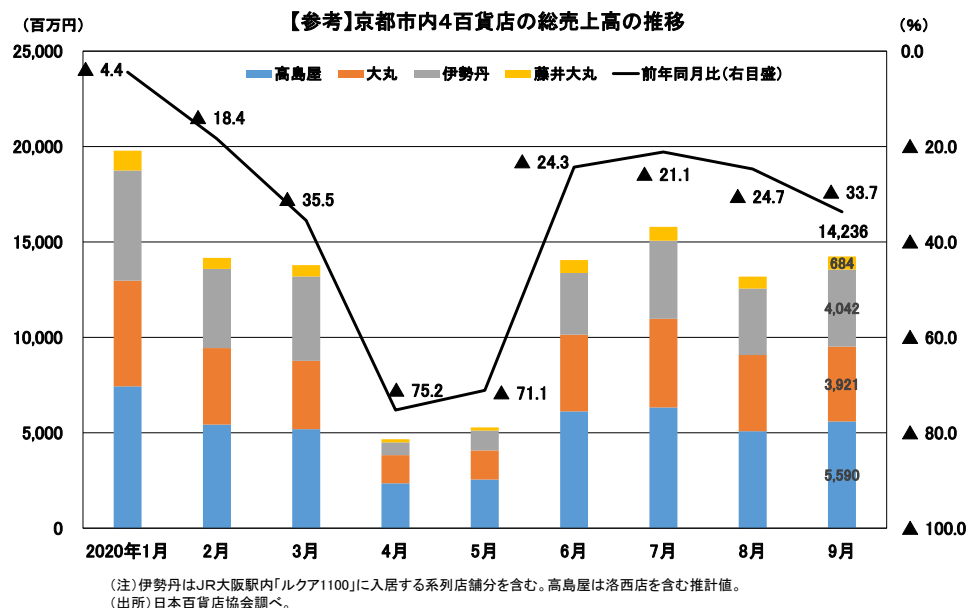


(%) 大型専門店の業態別販売額の推移(前年同期(月)比)



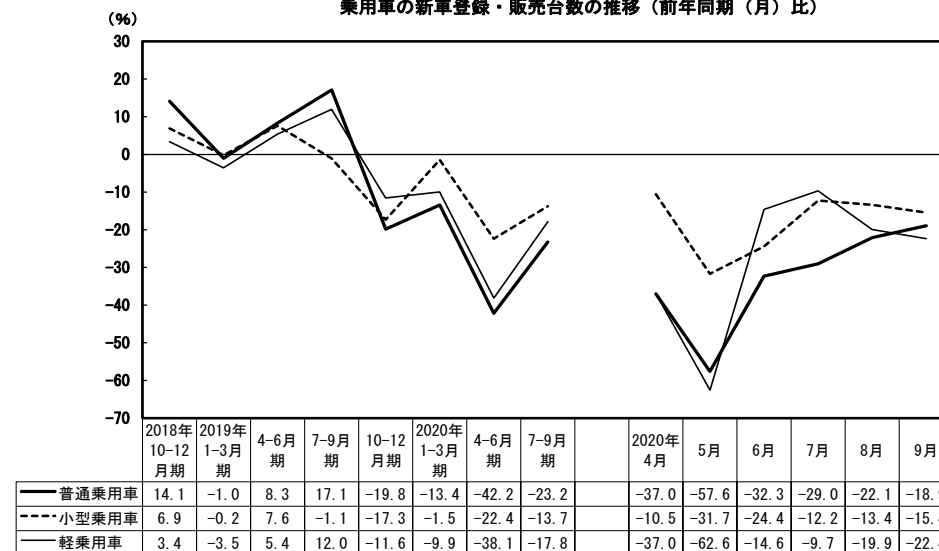
【ご参考】

- 9月の京都市内4百貨店の総売上高は14,236百万円、前年同月比-33.7%で、消費税率引き上げ直後の昨年の10月以降、12か月連続の減少となっている。新型コロナウイルスの感染拡大の影響による入店客数の低迷に加え、消費増税直前の駆け込み需要の反動減もあり、減少幅は前月より拡大し、大幅の減少が続いている。

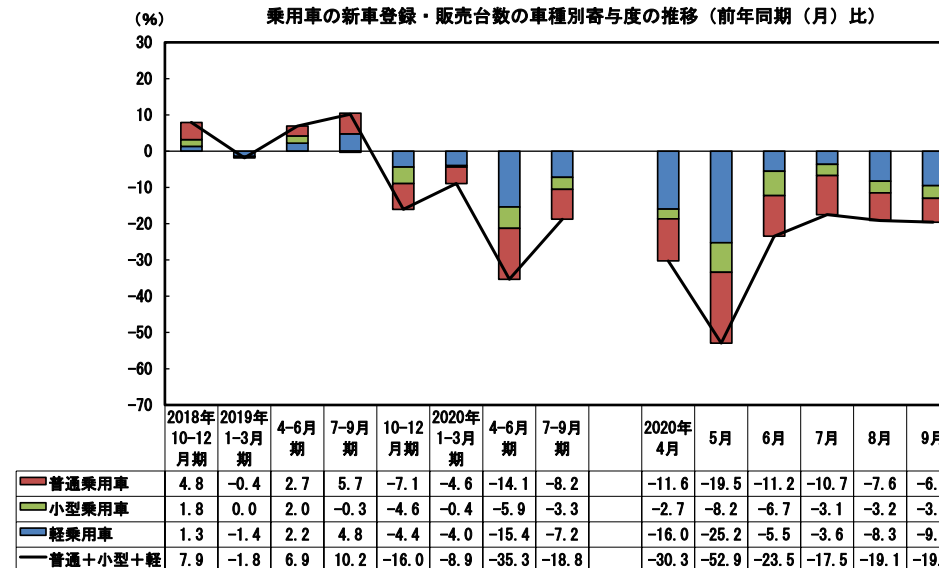


- 「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(9月)は、「普通乗用車(3ナンバー)」が12か月連続かつ大幅の減少となっているのに加え(1,830台、同-18.9%)、「小型乗用車(5ナンバー)」も6か月連続で大幅に減少したため(1,245台、同-15.4%)、2車種合計では12か月連続かつ大幅の減少となっている(3,075台、同-17.5%)。「軽乗用車」も12か月連続かつ大幅に減少(2,130台、同-22.4%)。これは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家計収入の減少や将来不安などによる買い控えが続いているものと考えられる。

乗用車の新車登録・販売台数の推移(前年同期(月)比)

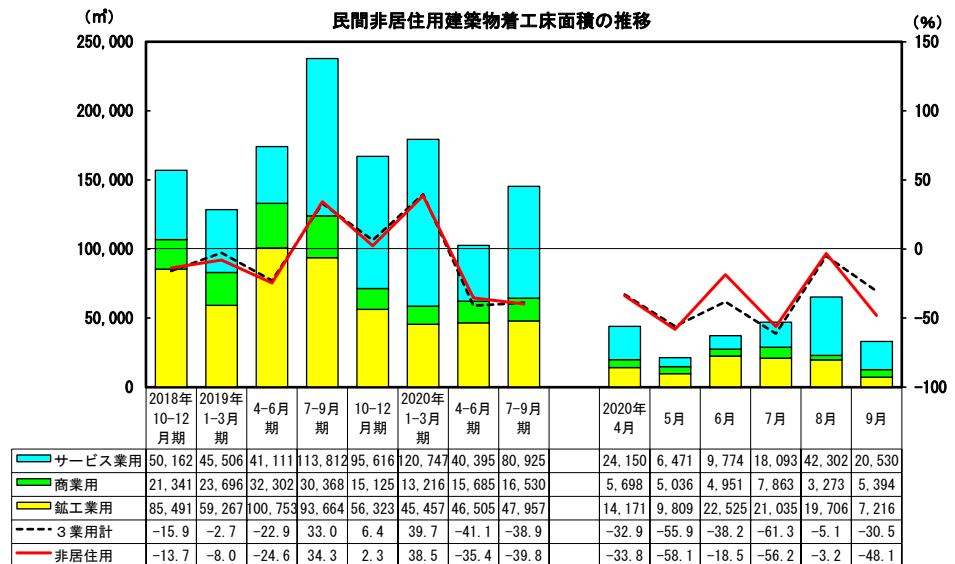


乗用車の新車登録・販売台数の車種別寄与度の推移(前年同期(月)比)

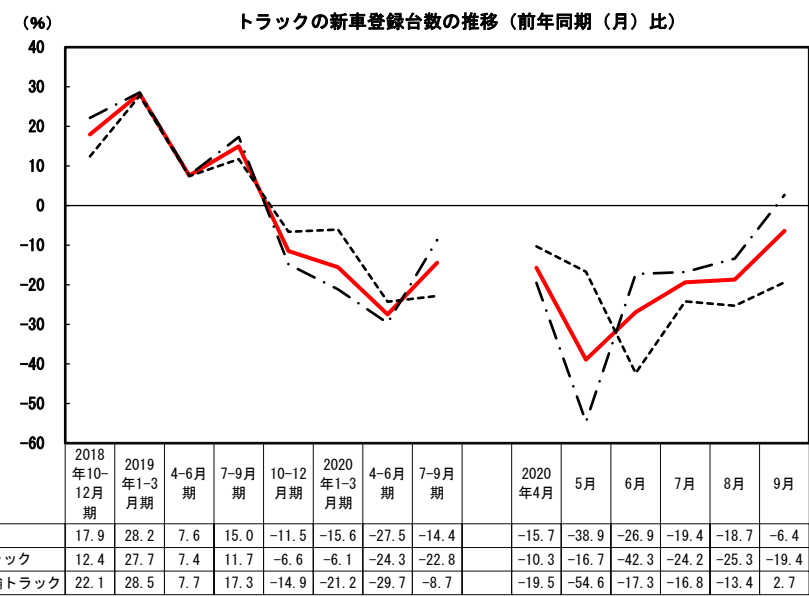


4. 民間設備投資…「民間非居住用建築物着工床面積」は6か月連続かつ大幅に減少

- ・「民間非居住用建築物着工床面積」（9月）は39,707㎡、前年同月比-48.1%で、6か月連続かつ大幅に減少している。用途別にみると、「鉱工業用」は微減となったものの（7,216㎡、同-1.1%）、「商業用」と「サービス業用」がともに2か月ぶりに大幅減少したため（順に5,394㎡、同-68.0%、20,530㎡、同-12.8%）、この3業用計では6か月連続かつ大幅に減少（33,140㎡、同-30.5%）。
- ・トラック新車登録台数（9月）は、「小型四輪トラック（4ナンバー車）」が12か月ぶりに増加に転じたものの（263台、同+2.7%）、「普通トラック（1ナンバー車）」は7か月連続かつ大幅に減少しているため（145台、同-19.4%）、2車種合計では12か月連続で減少している（408台、同-6.4%）。



（注）「鉱工業用」は、「鉱業、採石業、砂利採取業、建設業用」と「製造業用」の合計。
「商業用」は、「卸売業、小売業用」および「金融業、保険業用」「不動産業用」の合計。
「サービス業用」は、「電気・ガス・熱供給・水道業用」および「情報通信業用」「運輸業用」「宿泊業、飲食サービス業用」「教育、学習支援業用」「医療、福祉用」「その他のサービス業用」の合計。



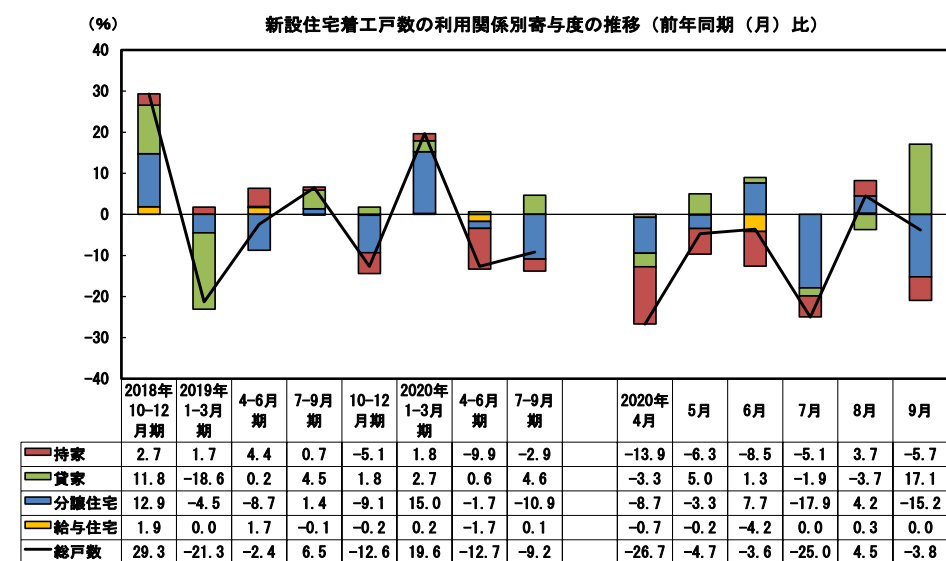
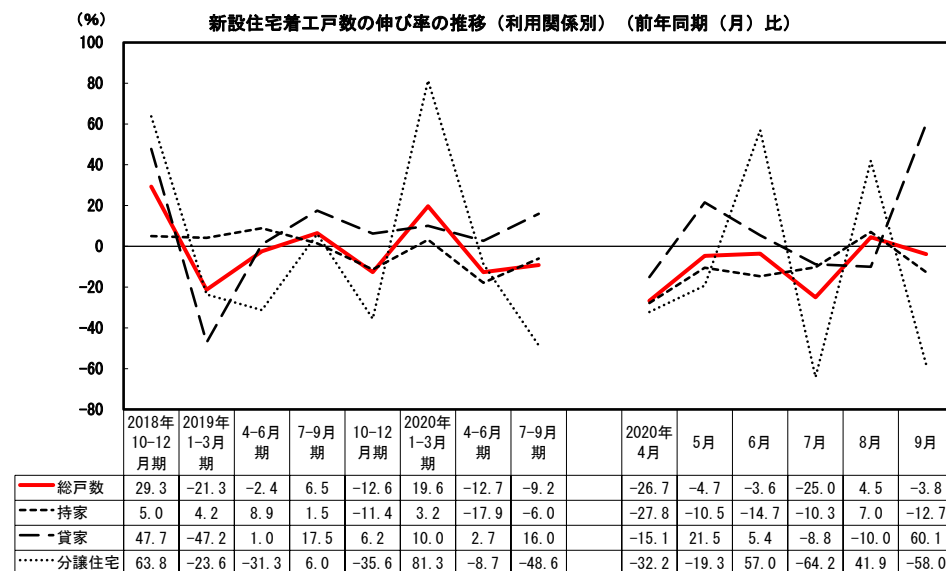
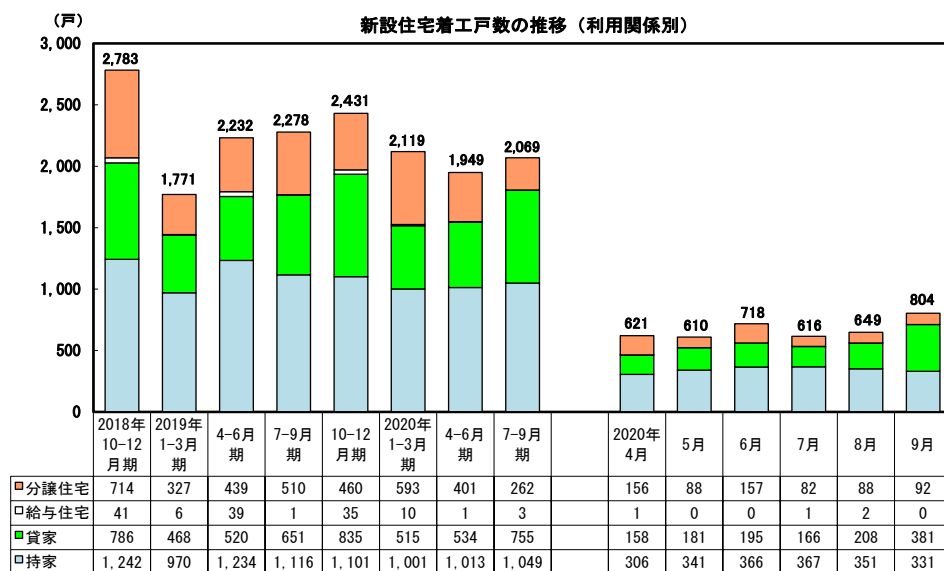
・（株）しがぎん経済文化センターが今年8月に実施した「県内企業動向調査」は（有効回答数367社）、今期7-9月期に設備投資を「実施」した（する）割合は、前期を4ポイント上回り41%となった。しかし次期10-12月期は29%と再び低下する見通し。当期の設備投資「実施」（予定を含む）企業の主な投資内容は、「生産・営業用設備の更新」が再び最も多くなり（35%）、次いで「車両の購入」（28%）となった。業種別にみると、製造業では引き続き「生産・営業用設備の更新」（58%）、非製造業では「車両の購入」（37%）が最も多い。

設備投資実施（20/7-9月期）の主な内容（複数回答）

	合計	生産・営業用設備の更新	生産・営業用設備の新規導入	土地購入	建物の増改築	建物の新築	車両の購入	OA機器の購入	ソフトウェアの購入	その他
全体	181	35	26	10	13	6	28	24	18	4
製造業	74	58	35	7	11	5	15	11	10	3
非製造業	107	19	20	12	15	6	37	33	23	5

5. 住宅投資…「新設住宅着工戸数」は2か月ぶりに減少

- 「新設住宅着工戸数」（9月）は804戸、前年同月比－3.8%となり、2か月ぶりに減少した。
- 利用関係別では、「貸家」は381戸、同+60.1%で、3か月ぶりに大幅増加したが（大津市213戸など）、「持家」は331戸、同－12.7%となり2か月ぶりに大幅減少（大津市69戸など）。「分譲住宅」は92戸、同－58.0%で、2か月ぶりに大幅減少し（大津市43戸など）、うち「分譲マンション」は3か月連続で申請がなく、「一戸建て」は2か月連続で増加（前年差+13戸）。「給与住宅」はなし。
- 新設住宅着工の「床面積」（9月）は66,617㎡、前年同月比－15.2%で、2か月ぶりに大幅減少。
- 利用関係別では、「貸家」は16,521㎡、同+23.6%で、2か月ぶりに大幅増加したが、「持家」は40,401㎡、同－11.6%で、2か月ぶりに大幅減少、「分譲住宅」は9,695㎡、同－50.1%で、これも2か月ぶりに大幅減少。
- 9月の分譲マンション新規販売率（1月からの新規販売戸数累計：328戸／同新規供給戸数累計：430戸）は76.3%となり、好不調の境目といわれる70%を5か月ぶりに上回った（参考：近畿全体では69.2%）。平均住戸面積は73.14㎡、平均販売価格は3,785万円。

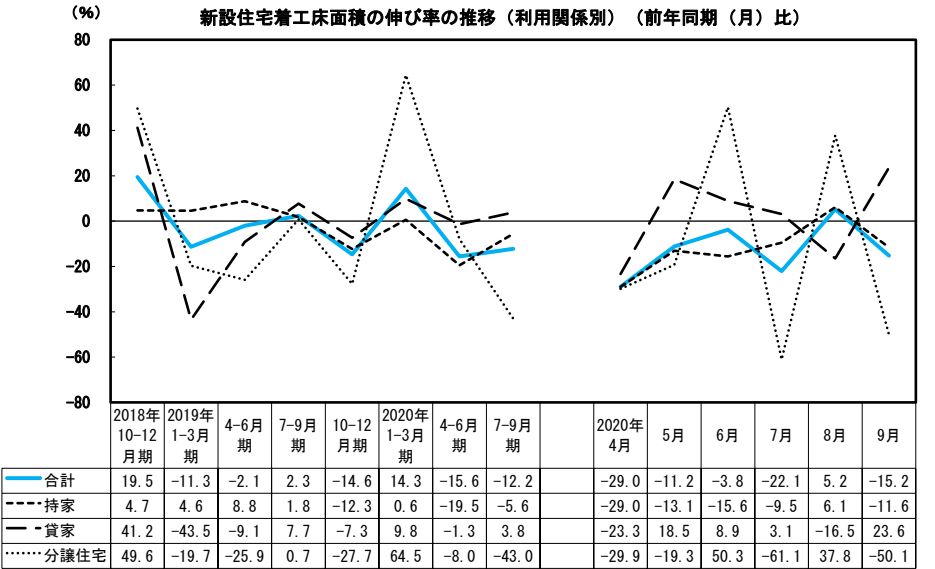
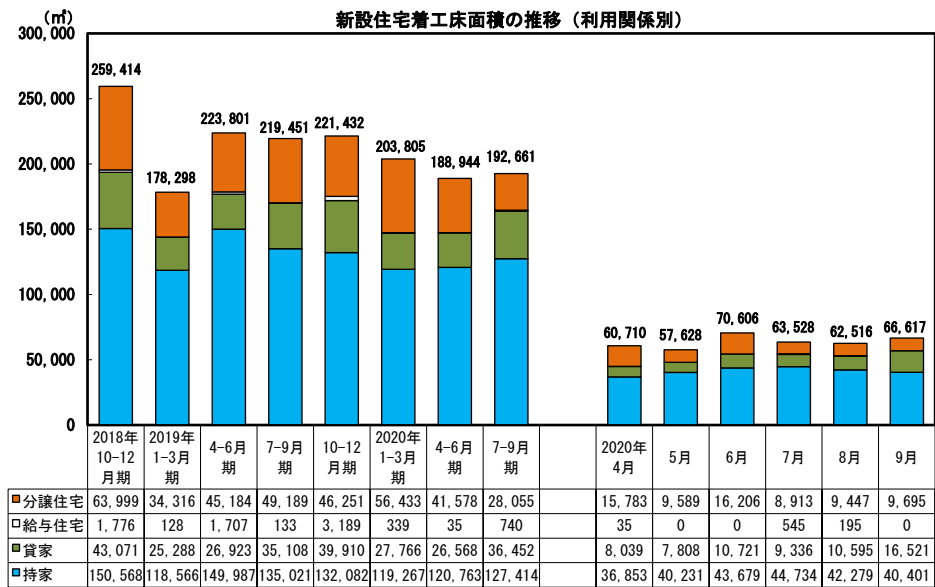


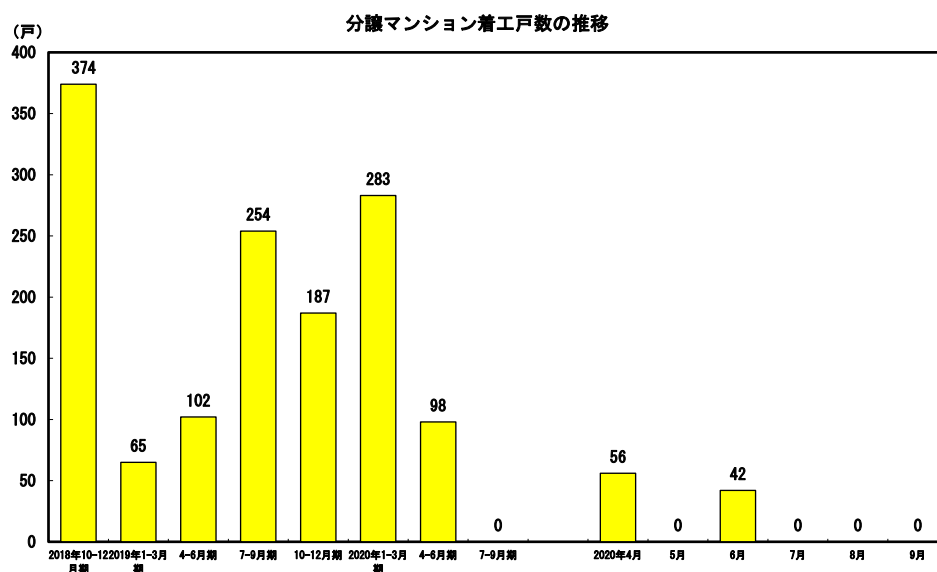
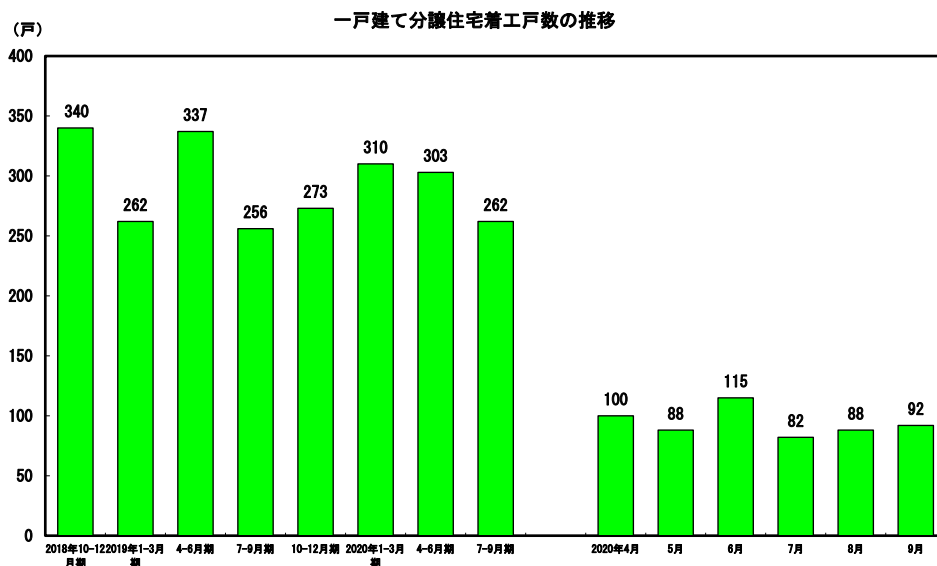
滋賀県

【新設住宅】利用関係別戸数(単位:戸)

月次集計:2020年9月

CODE	県都市町名	利用関係計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅
	滋賀県計	804	331	381	0	92
	市部計	789	317	381	0	91
	郡部計	15	14	0	0	1
201	大津市	325	69	213	0	43
202	彦根市	67	29	33	0	5
203	長浜市	42	16	22	0	4
204	近江八幡市	47	23	21	0	3
206	草津市	81	38	33	0	10
207	守山市	46	26	10	0	10
208	栗東市	34	15	16	0	3
209	甲賀市	35	33	0	0	2
210	野洲市	18	13	0	0	5
211	湖南市	14	9	4	0	1
212	高島市	17	9	8	0	0
213	東近江市	48	27	17	0	4
214	米原市	15	10	4	0	1
380	蒲生郡	6	6	0	0	0
383	日野町	3	3	0	0	0
384	竜王町	3	3	0	0	0
420	愛知郡	3	2	0	0	1
425	愛荘町	3	2	0	0	1
440	犬上郡	6	6	0	0	0
441	豊郷町	0	0	0	0	0
442	甲良町	2	2	0	0	0
443	多賀町	4	4	0	0	0



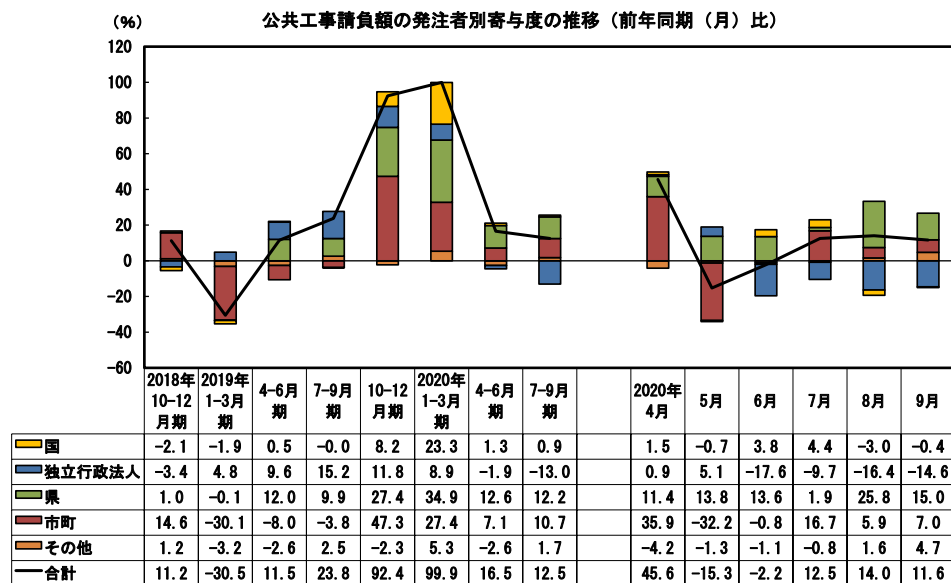
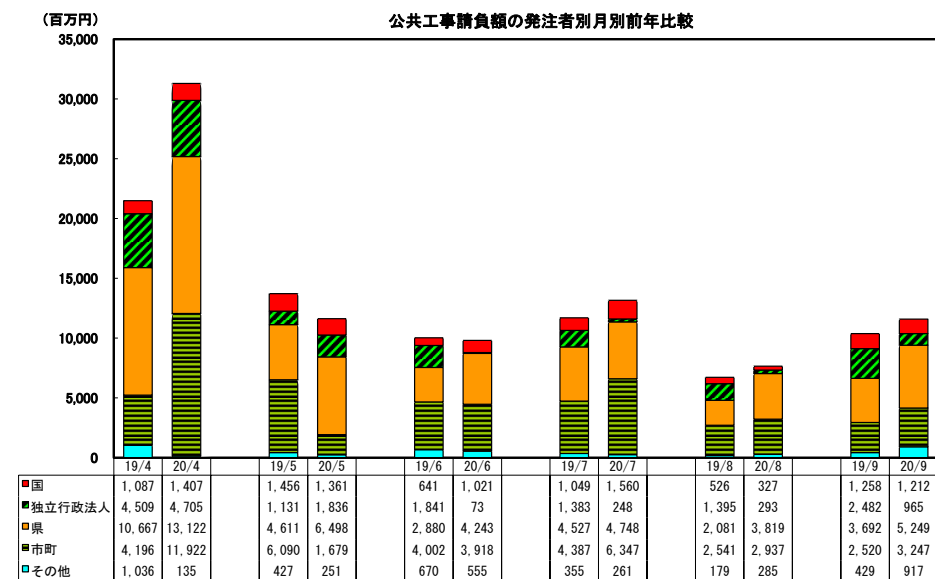
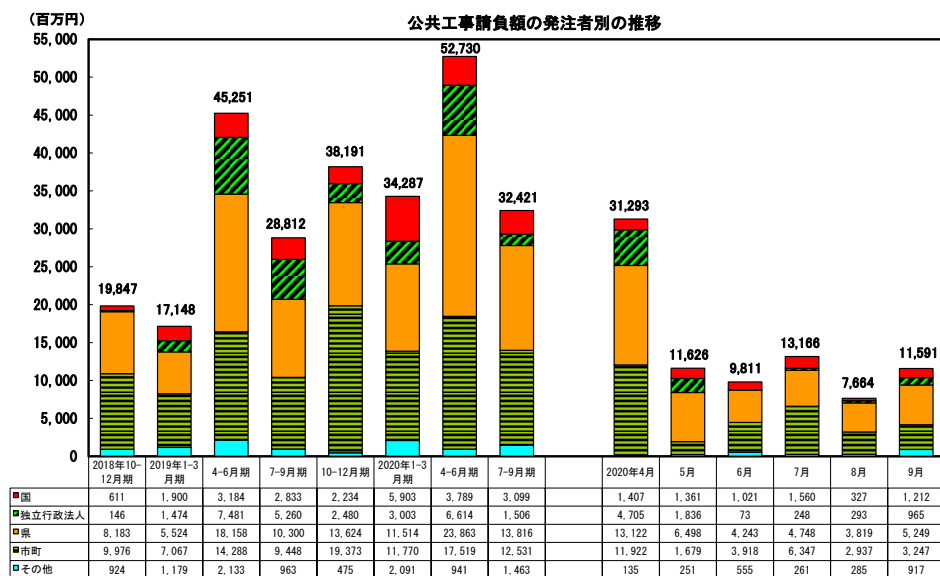


6. 公共投資…「請負金額」は3か月連続で大幅増加

- 西日本建設業保証㈱の保証による公共工事の保証件数（9月）は225件、前年同月比+17.8%で、2か月連続で増加した。請負金額は約116億円、同+11.6%で、3か月連続で大幅増加。
- 発注者別請負金額は、
 - 「国」：約12億円、前年同月比-3.7%
（4月からの年度累計：約69億円、前年同期比+14.5%）
 - 「独立行政法人」：約10億円、同-61.1%
（同：約81億円、同-36.3%）
 - 「県」：約52億円、同+42.2%
（同：約377億円、同+32.4%）
 - 「市町」：約32億円、同+28.8%
（同：約301億円、同+26.6%）
 - 「その他」：約9億円、同+113.8%
（同：約24億円、同-22.4%）

《20年9月の主な大型工事（3億円以上）》

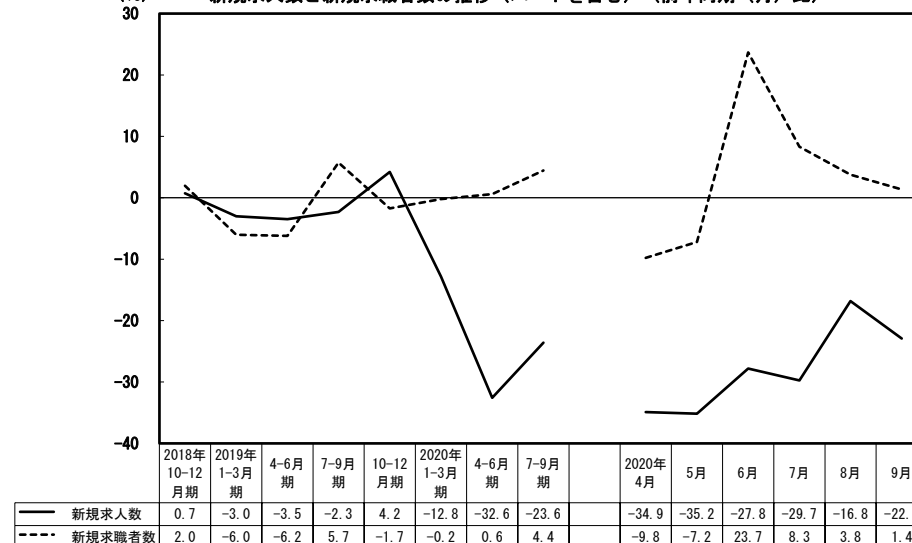
- 独立行政法人：滋賀医科大学（瀬田月輪）一般教養棟等改修その他工事（工事場所：大津市、請負総額：約3億円）
- 県：淡海地区ため池改修第3工事（同：高島市、同：約5億円）
- その他：琵琶湖湖南中部浄化センター建設工事（同：草津市、同：約16億円）



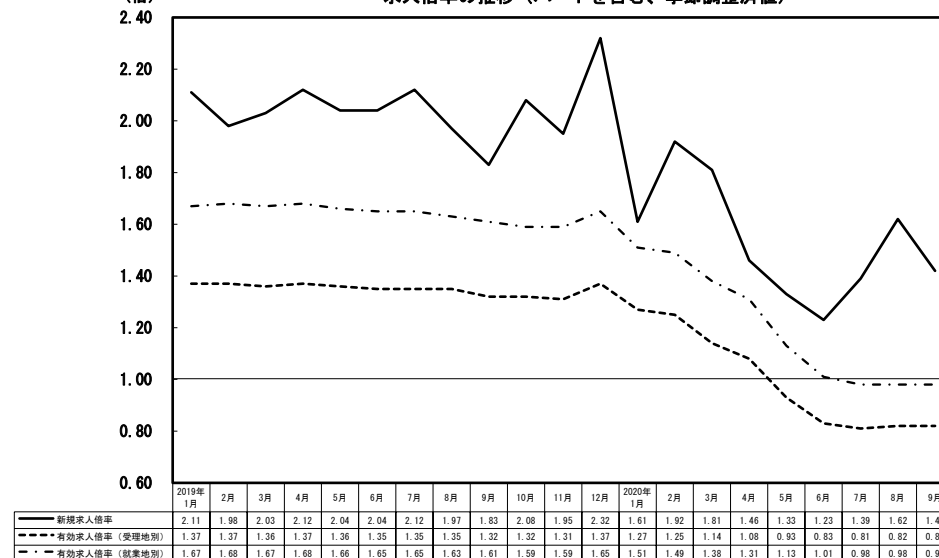
7. 雇用…「有効求人倍率」は5か月連続で1倍を下回る

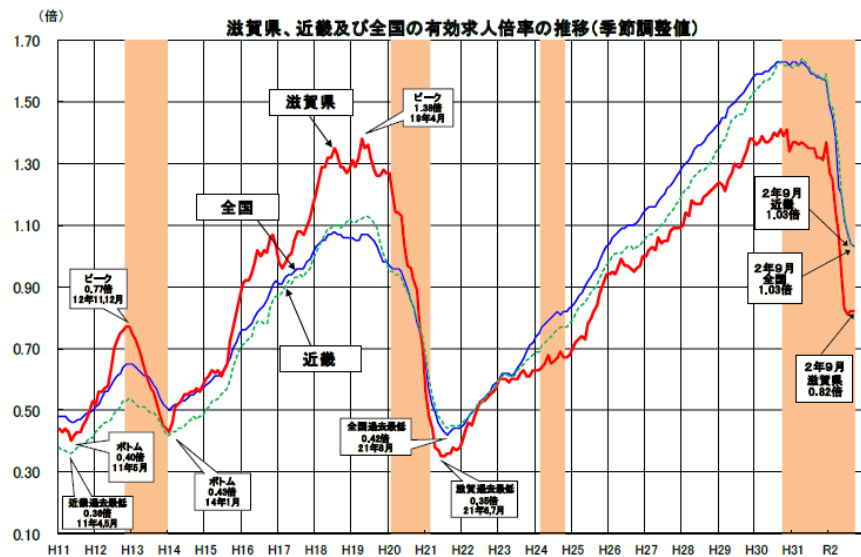
- 「新規求人数（パートを含む）」（9月）は6,815人、前年同月比－22.9%で、9か月連続かつ大幅に減少したが、「新規求職者数（同）」は5,048人、同＋1.4%で、4か月連続で増加。
- 「新規求人倍率（パートを含む、季節調整値）」は1.42倍で前月に比べ3か月ぶりに大幅低下（前月差－0.20ポイント）、「有効求人倍率（同）」は前月と同じ0.82倍で、5か月連続で1倍を下回っている。また、「就業地別」の有効求人倍率も前月と同じ0.98倍で、3か月連続で1倍を下回っている。
- 雇用形態別の有効求人倍率（原数値）は、「常用パート」が0.85倍で前月に比べ低下したが（同－0.02ポイント）、「正社員」は前月と同じ0.52倍。
- 県内安定所別の有効求人倍率（パートを含む、原数値）を高い順にみると、
 「彦根」：1.07倍で、前月と同じ。
 「大津」：0.79倍で、3か月ぶりに低下（同－0.04ポイント）。
 「草津」：0.79倍で、7か月ぶりに上昇（同＋0.02ポイント）。
 「高島」：0.77倍で、4か月連続で上昇（同＋0.02ポイント）。
 「長浜」：0.69倍で、前月と同じ。
 「東近江」：0.67倍で前月と同じ。
 「甲賀」：0.66倍で、3か月連続で上昇（同＋0.01ポイント）。
- 産業別の「新規求人数」は、
 「建設業」：509人、前年同月比－5.4%で、2か月ぶりに減少。
 「製造業」：976人、同－31.1%で、20か月連続かつ大幅に減少。
 「卸売・小売業」：633人、同－41.1%で、9か月連続かつ大幅に減少。
 「医療、福祉」：2,038人、同＋20.3%で、6か月ぶりに大幅増加。
 「サービス業」：732人、同－41.6%で、12か月連続で大幅減少。
 「公務、その他」：315人、同－5.7%で、4か月ぶりに減少。
- 「雇用保険受給者実人員数」は6,991人、同＋47.5%で、5か月連続かつ大幅に増加。
- 「常用雇用指数（事業所規模30人以上、2015年＝100）」（8月）は、102.9、同＋0.1%で、微増ながら2か月連続で上昇。「製造業の所定外労働時間指数（同）」は62.6、同－33.5%で、19か月連続かつ大幅に低下。
- 「完全失業率」（20年4－6月期）は2.1%で、2四半期連続で上昇（前期比＋0.1ポイント）。

新規求人数と新規求職者数の推移（パートを含む）（前年同期（月）比）

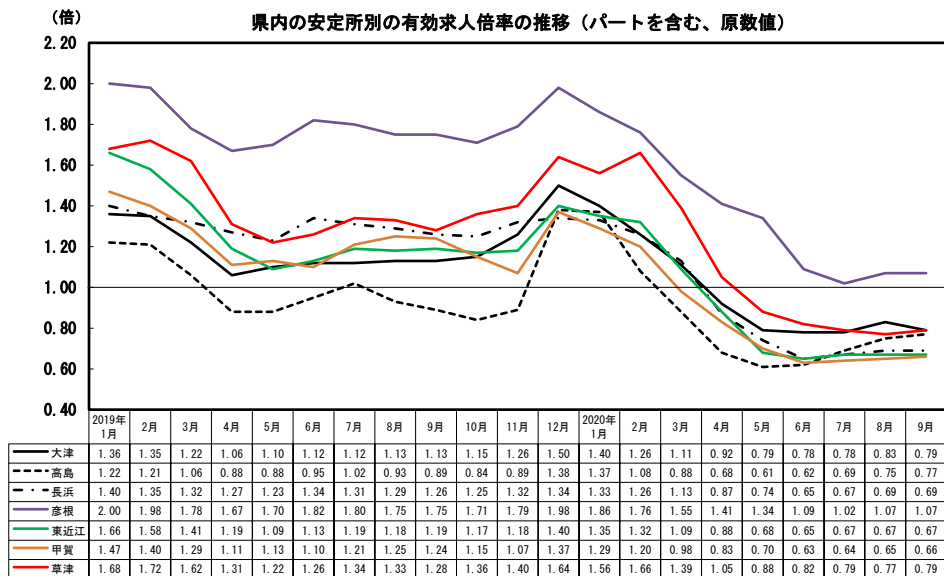


求人倍率の推移（パートを含む、季節調整済値）

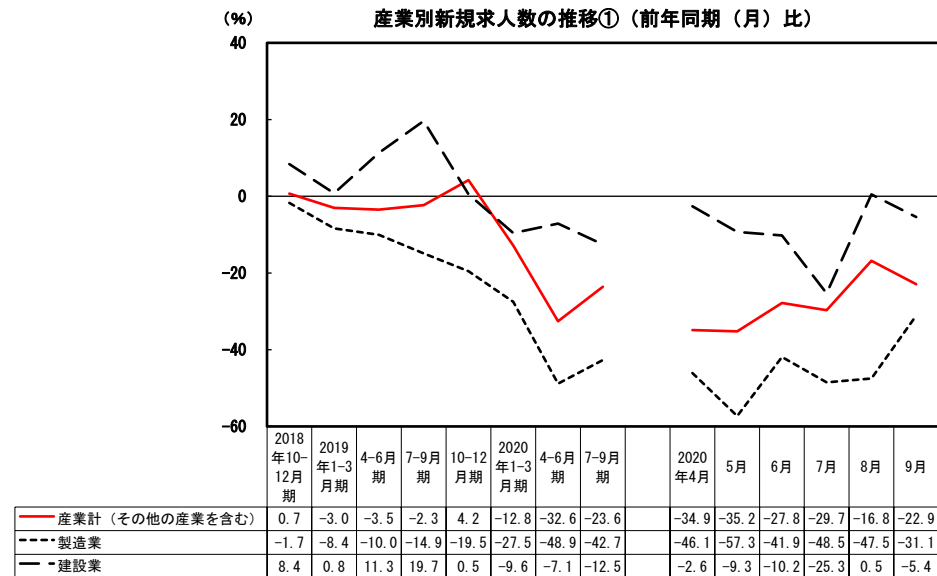




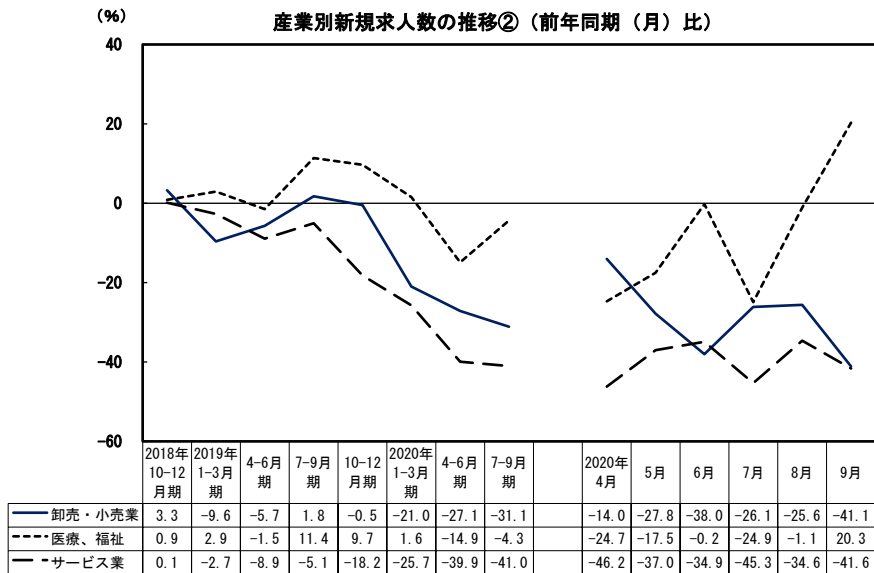
(出所: 滋賀労働局)



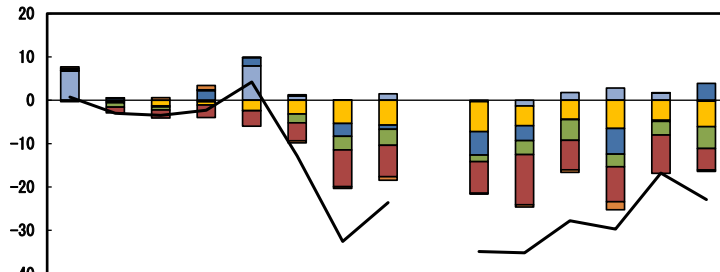
産業別新規求人数の推移① (前年同期 (月) 比)



産業別新規求人数の推移② (前年同期 (月) 比)

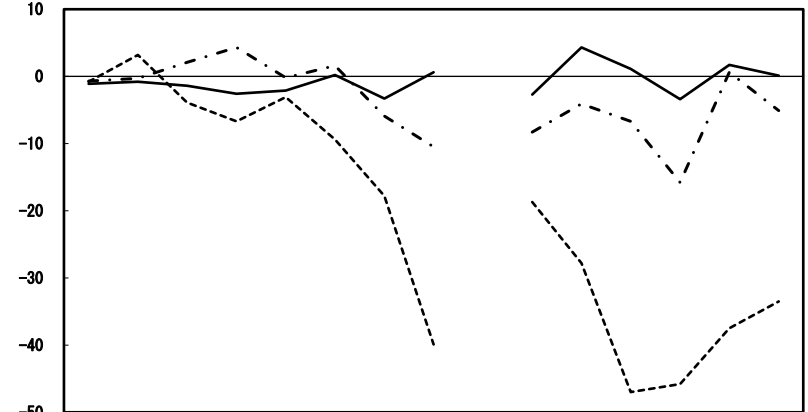


新規求人数の産業別寄与度の推移（前年同期（月）比）



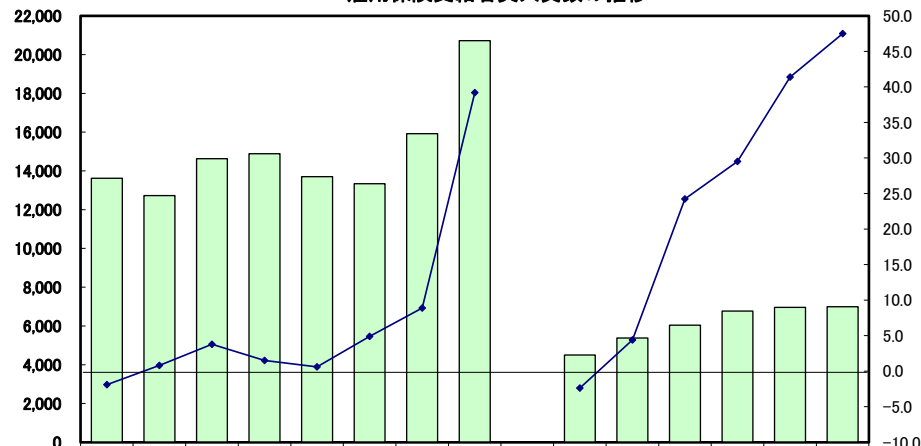
	2018年10-12月期	2019年1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年1-3月期	4-6月期	7-9月期	2020年4月	5月	6月	7月	8月	9月
建設業	0.4	0.0	0.6	1.0	0.0	-0.5	-0.4	-0.8	-0.2	-0.5	-0.6	-1.9	0.0	-0.3
製造業	-0.3	-1.3	-1.9	-2.9	-3.5	-4.1	-8.5	-7.3	-7.3	-11.6	-6.8	-8.1	-8.8	-5.0
卸売・小売業	0.3	-1.0	-0.7	0.2	0.0	-2.0	-3.2	-3.7	-1.5	-3.2	-4.8	-2.9	-3.1	-5.0
医療、福祉	0.2	0.5	-0.3	2.2	1.9	0.3	-3.0	-1.0	-5.4	-3.4	0.0	-5.9	-0.3	3.9
サービス業	0.0	-0.3	-1.3	-0.7	-2.4	-3.2	-5.3	-5.7	-6.9	-4.6	-4.4	-6.5	-4.6	-5.9
公務、他	6.8	-0.3	0.0	-0.4	7.9	1.0	0.1	1.5	-0.3	-1.3	1.8	2.8	1.7	-0.2
産業計（その他の産業を含む）	0.7	-3.0	-3.5	-2.3	4.2	-12.8	-32.6	-23.6	-34.9	-35.2	-27.8	-29.7	-16.8	-22.9

常用雇用指数と所定外労働時間指数の推移（前年同期（月）比）



	2018年7-9月期	2018年10-12月期	2019年1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年1-3月期	4-6月期	2020年3月	2020年4月	5月	6月	7月	8月
常用雇用指数	-1.1	-0.8	-1.4	-2.6	-2.1	0.2	-3.3	0.6	-2.7	4.3	1.1	-3.4	1.7	0.1
所定外労働時間指数	-0.8	3.2	-3.9	-6.7	-3.1	-9.4	-17.8	-39.9	-18.7	-27.8	-47.0	-45.8	-37.5	-33.5
名目現金給与総額	-0.7	-0.3	2.1	4.3	-0.2	1.6	-5.9	-10.5	-8.3	-4.1	-6.7	-15.8	0.6	-5.1

雇用保険受給者実人員数の推移



	2018年10-12月期	2019年1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	2020年1-3月期	4-6月期	7-9月期	2020年4月	5月	6月	7月	8月	9月
人員数	13,617	12,724	14,628	14,890	13,700	13,342	15,924	20,721	4,505	5,378	6,041	6,767	6,963	6,991
前年同月比	-1.9	0.8	3.8	1.5	0.6	4.9	8.9	39.2	-2.4	4.4	24.2	29.5	41.4	47.5

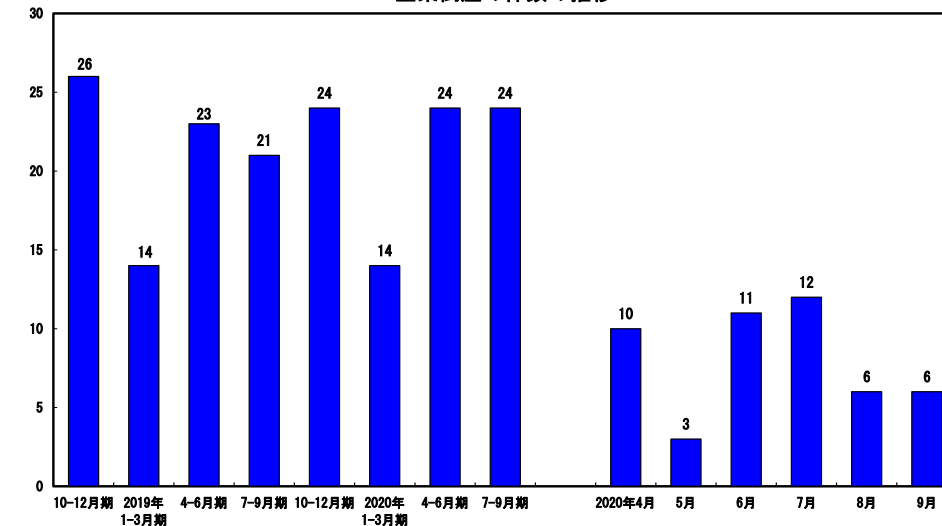
8. 企業倒産…「負債総額」は2か月連続で前年を上回る

- ・(株)東京商工リサーチ滋賀支社のまとめによる「負債総額 10 百万円以上」の9月の倒産件数は6件で（前年差+1件）、2か月ぶりに前年を上回り、負債総額は約 345 百万円（同+250 百万円）で、2か月連続で前年を上回っている。
- ・業種別では「サービス業他」が4件、「製造業」と「不動産業」が各1件ずつ。原因別では「販売不振」が5件、「過小資本」が1件。資本金別では6件中4件が「1千万円未満」。

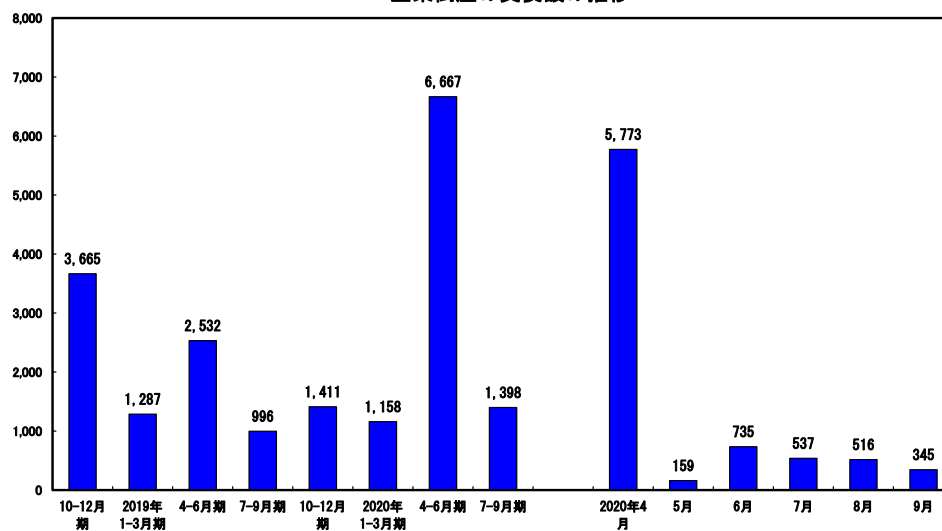
【20 年 9 月の県内の主な倒産】

商 号	負債額 (百万円)	倒産原因	倒産形態	業 種
竜王食品(株)	270	運転資金の 欠乏	破産法	漬物製造販売
(株)井上建築設計事務所	35	販売不振	破産法	建築設計業

(件) 企業倒産の件数の推移



(百万円) 企業倒産の負債額の推移



9. 県内主要観光地の観光客数

【①大津地域】

ミシガン+ピアンカ……………	20年 9月	7,130人 (前年比－55.8%)
道の駅：びわ湖大橋米プラザ……………	9月	56,446人 (同－0.5%)
道の駅：妹子の郷……………	9月	73,000人 (同－6.4%)
比叡山ドライブウェイ……………	9月	37,416人 (同－16.4%)
奥比叡ドライブウェイ……………	9月	21,265人 (同－15.6%)
びわ湖バレイ……………	9月	53,297人 (同－19.0%)

【②南部地域】

県立琵琶湖博物館……………	9月	20,633人 (同－51.3%)
道の駅：草津……………	9月	16,541人 (同－3.3%)
道の駅：こんぜの里りっとう……………	9月	2,419人 (同－23.2%)
ファーマーズマーケットおうみんち……………	9月	33,841人 (同＋4.2%)
びわ湖鮎家の郷……………	9月	1,800人 (同－88.6%)

【③甲賀地域】

県立陶芸の森……………	9月	56,347人 (同＋19.8%)
MIHO MUSEUM……………	9月	8,436人 (同－33.4%)
道の駅：あいの土山……………	9月	8,950人 (同－2.7%)

【④東近江地域】

ラ コリーナ近江八幡……………	9月	252,386人 (同－17.6%)
休暇村 近江八幡……………	9月	6,632人 (同－22.0%)
安土(城郭資料館＋信長の館)……………	9月	6,481人 (同－9.7%)
道の駅：竜王かがみの里……………	9月	52,663人 (同－12.1%)
道の駅：アグリパーク竜王……………	9月	69,827人 (同＋8.3%)
(※8月修正：71,761人、同＋25.0%)		
道の駅：奥永源寺溪流の里……………	9月	30,529人 (同－5.6%)
道の駅：あいとうマレットステーション……………	9月	65,785人 (同－9.2%)
滋賀農業公園ブルーメの丘……………	9月	32,354人 (同－4.4%)

【⑤湖東地域】

彦根城……………	9月	38,145人 (同－32.2%)
かんぼの宿 彦根……………	9月	1,663人 (同－71.3%)
道の駅：せせらぎの里こうら……………	9月	16,468人 (同＋7.7%)

【⑥湖北地域】

道の駅：近江母の郷……………	9月	19,776人 (同－8.7%)
長浜城……………	9月	7,415人 (同－0.1%)
長浜「黒壁スクエア」……………	9月	108,156人 (同－26.4%)
道の駅：伊吹の里・旬彩の森……………	9月	38,250人 (同＋11.1%)
道の駅：塩津海道あぢかまの里……………	9月	35,601人 (同＋9.4%)

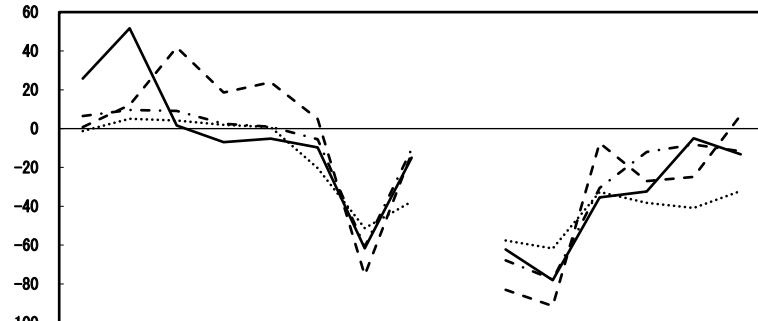
【⑦湖西地域】

県立びわ湖こどもの国……………	9月	26,365人 (同＋14.3%)
道の駅：藤樹の里あどがわ……………	9月	67,769人 (同－2.8%)
道の駅：くつき新本陣……………	9月	28,311人 (同＋10.4%)
道の駅：マキノ追坂峠……………	9月	17,357人 (同－1.2%)

【⑧その他】

主要3シネマコンプレックス……………	9月	22,848人 (同－35.5%)
--------------------	----	-------------------

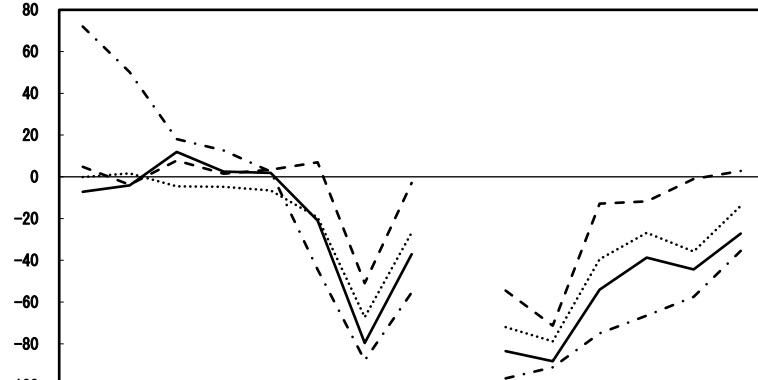
(%) 県内主要観光地の入込客数の推移（前年同期（月）比）①



	2018年 10-12月 期	2019年 1-3月 期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	2020年 1-3月 期	4-6 月期	7-9 月期		2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
①大津地域小計（6か所）	25.8	51.7	1.6	-7.0	-5.1	-9.7	-61.7	-14.9		-62.3	-78.1	-35.4	-32.4	-5.0	-13.3
②南部地域小計（5か所）	-1.3	5.1	4.2	2.0	0.8	-20.3	-51.3	-37.6		-57.6	-61.7	-32.6	-38.3	-40.9	-32.1
③甲賀地域小計（3か所）	0.8	12.2	41.9	18.6	23.9	5.0	-75.5	-12.8		-83.0	-91.4	-7.4	-27.0	-24.9	7.0
④東近江地域小計（8か所）	6.5	9.6	9.1	2.5	1.0	-5.5	-60.9	-10.5		-67.8	-77.7	-30.6	-12.0	-8.2	-11.7

※①大津地域小計に含まれる「道の駅：妹子の郷」は、台風の影響で17年10月から18年3月まで営業停止

(%) 県内主要観光地の入込客数の推移（前年同期（月）比）②



	2018年 10-12月 期	2019年 1-3月 期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	2020年 1-3月 期	4-6 月期	7-9 月期		2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
⑤湖東地域小計（3か所）	-7.1	-4.1	11.9	2.5	1.9	-21.0	-79.6	-37.1		-83.5	-88.4	-54.1	-38.7	-44.4	-27.2
⑥湖北地域小計（5か所）	-0.1	1.6	-4.6	-4.8	-6.6	-19.5	-67.2	-26.7		-72.0	-78.8	-39.5	-26.8	-35.8	-13.9
⑦湖西地域小計（4か所）	4.8	-3.8	7.8	1.5	3.4	7.0	-50.9	-2.9		-54.5	-71.3	-12.8	-11.8	-1.0	2.8
⑧主要3シネマコンプレックス	72.0	50.1	18.1	12.7	2.5	-44.5	-87.9	-55.4		-96.5	-91.2	-75.0	-66.4	-57.5	-35.5

《トピックス》

【県内企業の景況感などについて】

（滋賀県景況調査結果報告書より）

ー景況、生産、売上、経常利益の各D Iは
マイナス幅が縮小ー

調査実施者：滋賀県商工観光労働部商工政策課

調査期間：2020年8月

調査企業数：県内の事業所 750 社

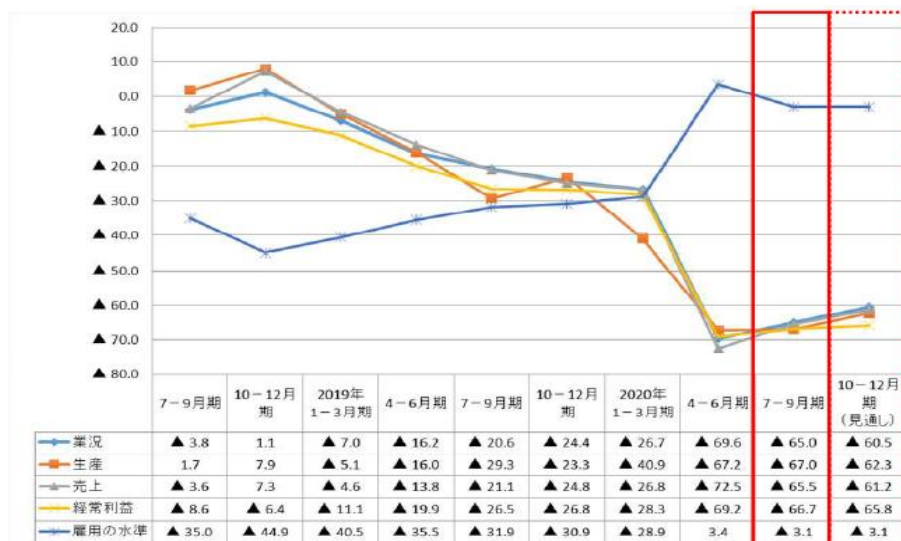
調査方法：郵送アンケート

有効回答数：265 社（回答率 35%）

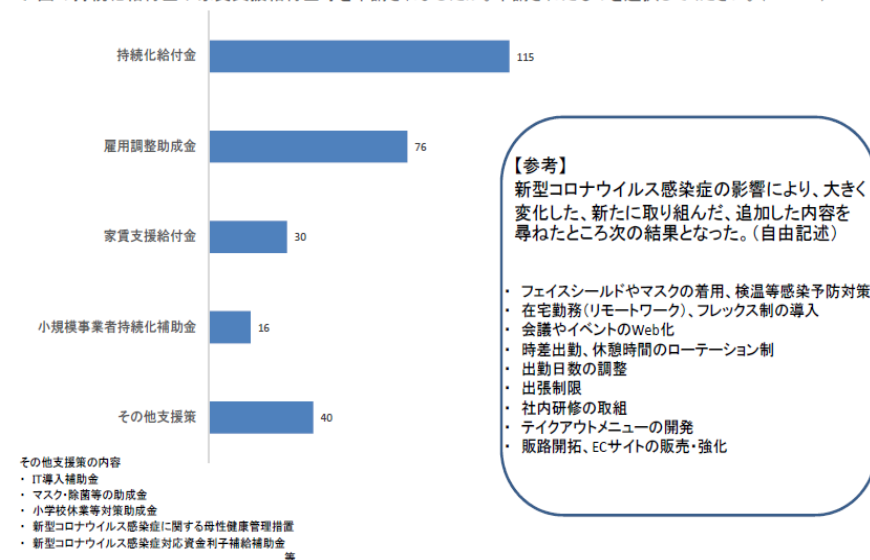
◆今期（20年7～9月期）の県内企業の景況（前期（4～6月期）との比較）をみると、業況（▲69.6→▲65.0）、生産（▲67.2→▲67.0）、売上（▲72.5→▲65.5）、経常利益（▲69.2→▲66.7）の各D Iのマイナス幅は縮小した。雇用の水準D Iはプラスからマイナスに転じ（+3.4→▲3.1）、不足感が強まった。

◆来期（10～12月期）の見通しは、業況（▲65.0→▲60.5）、生産（▲67.0→▲62.3）、売上（▲65.5→▲61.2）、経常利益（▲66.7→▲65.8）の各D Iのマイナス幅が縮小。雇用の水準D Iは変わらない見通し（▲3.1→▲3.1）。

◆新型コロナウイルス感染症に関する事業者支援について申請状況を尋ねたところ（複数回答可）、「持続化給付金」が115件、「雇用調整助成金」が76件となり、回答数の半数以上を占めた。



Q 国の持続化給付金や家賃支援給付金等を申請されましたか。申請されたものを選択してください。(n=277)



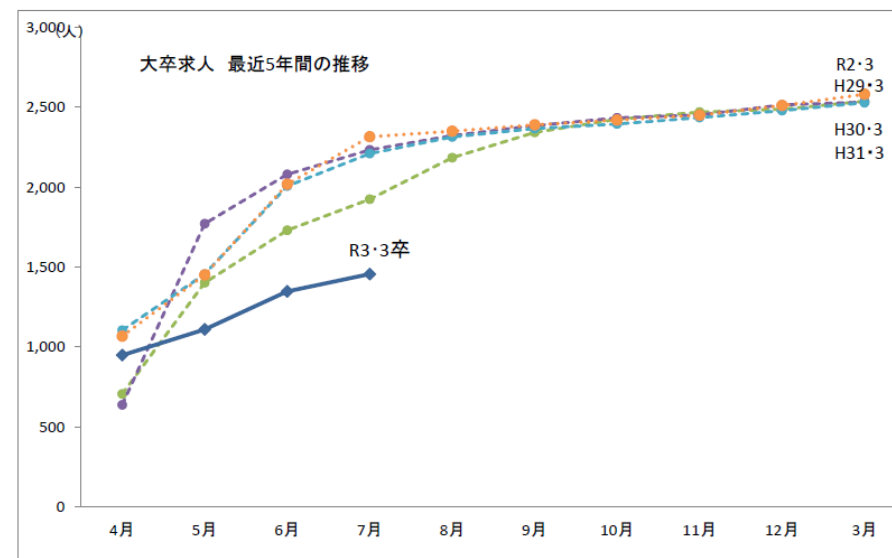
24

【県内企業の新卒求人数】 (滋賀労働局とりまとめ) ー 3割以上減少ー

◆滋賀労働局では、令和3年3月新規大学等卒業予定者対象求人および令和3年3月新規高等学校卒業予定者対象求人の令和2年7月末現在の状況を取りまとめた。

◆新規大学等卒業予定者の求人・求職の状況

- ・令和3年3月大学等卒業予定者対象の求人数は1,456人となり、前年の2,316人と比べ860人(37.1%減)減少した。県内ハローワークの求人数が7月末時点で1,500人を下回ったのは、平成25年同期以来7年ぶりとなった。
- ・産業別では、生活関連サービス業、娯楽業(前年同期比71.4%減)、学術研究、専門・技術サービス業(同61.4%減)、建設業(同49.6%減)、製造業(同43.1%減)の減少が目立った。



◆新規高等学校卒業予定者の求人・求職の状況

【求人】

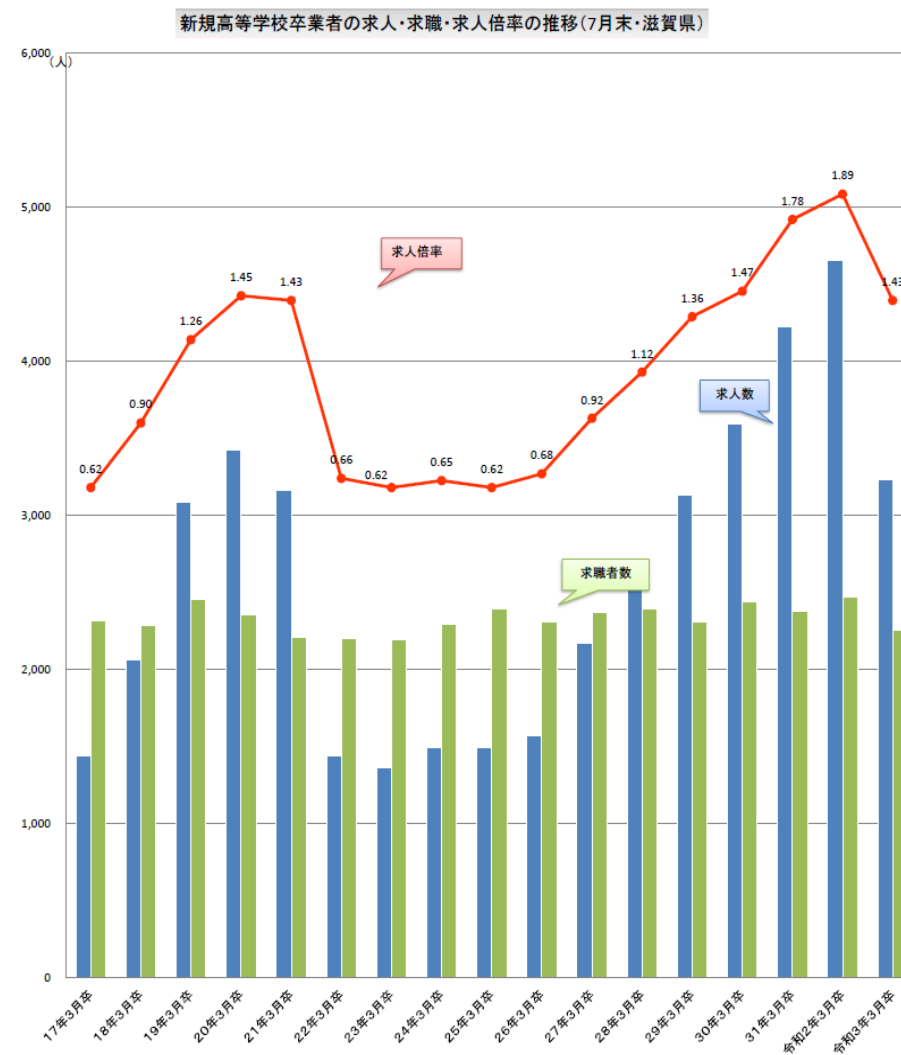
- 令和3年3月高等学校卒業予定者対象の求人数は3,232人となり、前年同期の4,653人と比べ1,421人(30.5%減)減少した。求人が減少したのは平成24年同期以来8年ぶりとなった。
- 産業別では、求人数全体の44%を占める製造業で1,426人となり前年同期の2,159人と比べ34.0%減少した他、宿泊業、飲食サービス業(前年同期比65.9%減)、不動産業、物品賃貸業(同50.0%減)、学術研究、専門・技術サービス業(同50.0%減)、生活関連サービス業、娯楽業(同42.4%減)、卸売業、小売業(同41.2%減)の減少が目立った。
- 職業別では、専門・技術、管理、事務、販売、サービス、技能工等、採掘、製造、建築の職業で減少した。
- 規模別(事業所別)では、全ての規模で減少した。

【求職】

- 求職者数は2,255人で、前年同期の2,466人と比べ8.6%減となり、2年ぶりに前年を下回った。

【求人倍率】

- 求人倍率は1.43倍で、前年の1.89倍と比べ0.46ポイント低下した。
- 7月末時点での求人倍率1倍以上は6年連続となっている。



《ご参考①：国内景気の動向》（2020年10月23日：内閣府）

月例経済報告

令和2年10月

総論

（我が国経済の基調判断）

景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。

- ・個人消費は、持ち直している。
- ・設備投資は、弱い動きとなっている。
- ・輸出は、持ち直している。
- ・生産は、持ち直しの動きがみられる。
- ・企業収益は、感染症の影響により、大幅な減少が続いている。企業の業況判断は、厳しさは残るものの、改善の動きがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。

先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

（政策の基本的態度）

政府は、東日本大震災からの復興・創生、激甚化・頻発化する災害への対応に取り組むとともに、決してデフレに戻さないとの決意をもって、新型コロナウイルス感染症の感染対策と経済活動を両立し、雇用の確保、事業の継続を通じて国民生活を守り抜く。その上で、感染症によって明らかになったデジタル化などの新たな目標について、規制改革など集中的な改革、必要な投資を行い、再び力強い経済成長を実現する。そのための主要施策について、「経済財政運営と改革の基本方針2020」等に基づき、経済財政諮問会議で議論される大きな方向性と重点課題に沿って、新たに設置した成長戦略会議において、改革を具体化する。

引き続き、令和2年度第1次補正予算を含む「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」及び第2次補正予算を可能な限り速やかに実行するとともに、内外の感染症の状況や経済の動向、国民生活への影響を注意深く見極めつつ、必要に応じて、躊躇なく、臨機応変に、かつ、時機を逸することなく対応する。

日本銀行においては、企業等の資金繰り支援に万全を期すとともに、金融市場の安定を維持する観点から、金融緩和を強化する措置がとられている。日本銀行には、経済・物価・金融情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を実現することを期待する。

〔参考〕先月からの主要変更点

	9月月例	10月月例
基調判断	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、 <u>このところ</u> 持ち直しの動きがみられる。 先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。 先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
政策態度	政府は、東日本大震災からの復興・創生、激甚化・頻発化する災害への対応に取り組むとともに、決してデフレに戻さないとの決意をもって、新型コロナウイルス感染症の感染対策と経済活動を両立し、雇用の確保、事業の継続を通じて国民生活を守り抜く。その上で、感染症によって明らかになったデジタル化などの新たな目標について、規制改革など集中的な改革、必要な投資を行い、再び力強い経済成長を実現する。そのための主要施策について、「経済財政運営と改革の基本方針2020」等に基づき、 <u>政策目標とそのスケジュール等を明らかにする実行計画を年末までに策定する。</u> 引き続き、令和2年度第1次補正予算を含む「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」及び第2次補正予算を可能な限り速やかに実行するとともに、内外の感染症の状況や経済の動向、国民生活への影響を注意深く見極めつつ、必要に応じて、躊躇なく、臨機応変に、かつ、時機を逸することなく対応する。日本銀行においては、企業等の資金繰り支援に万全を期すとともに、金融市場の安定を維持する観点から、金融緩和を強化する措置がとられている。日本銀行には、経済・物価・金融情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を実現することを期待する。	政府は、東日本大震災からの復興・創生、激甚化・頻発化する災害への対応に取り組むとともに、決してデフレに戻さないとの決意をもって、新型コロナウイルス感染症の感染対策と経済活動を両立し、雇用の確保、事業の継続を通じて国民生活を守り抜く。その上で、感染症によって明らかになったデジタル化などの新たな目標について、規制改革など集中的な改革、必要な投資を行い、再び力強い経済成長を実現する。そのための主要施策について、「経済財政諮問会議で議論される大きな方向性と重点課題に沿って、 <u>新たに設置した成長戦略会議において、改革を具体化する。</u> 引き続き、令和2年度第1次補正予算を含む「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」及び第2次補正予算を可能な限り速やかに実行するとともに、内外の感染症の状況や経済の動向、国民生活への影響を注意深く見極めつつ、必要に応じて、躊躇なく、臨機応変に、かつ、時機を逸することなく対応する。日本銀行においては、企業等の資金繰り支援に万全を期すとともに、金融市場の安定を維持する観点から、金融緩和を強化する措置がとられている。日本銀行には、経済・物価・金融情勢を踏まえつつ、2%の物価安定目標を実現することを期待する。

	9月月例	10月月例
個人消費	一部に足踏みもみられるが、 <u>持ち直している</u>	持ち直している
設備投資	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる
公共投資	堅調に推移している	堅調に推移している
輸出	持ち直している	持ち直している
輸入	<u>おおむね横ばいとなっている</u>	<u>このところ弱含んでいる</u>
貿易・サービス収支	赤字となっている	<u>おおむね均衡している</u>
生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる
企業収益	感染症の影響により、大幅な減少が続いている	感染症の影響により、大幅な減少が続いている
業況判断	厳しさは残るものの、改善の動きがみられる	厳しさは残るものの、改善の動きがみられる
倒産件数	おおむね横ばいとなっている	おおむね横ばいとなっている
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる
国内企業物価	<u>このところ緩やかに上昇している</u>	<u>このところ上昇テンポが鈍化している</u>
消費者物価	横ばいとなっている	横ばいとなっている

（注）下線部は先月から変更した部分。

《ご参考②：京都府・滋賀県の景気動向》



2020年10月16日
日本銀行京都支店

管内金融経済概況

【総論】

京都府・滋賀県の景気は、新型肺炎の影響により、依然として厳しい状態にあるが、足もとでは、持ち直しの動きがみられる。

需要面をみると、個人消費は、経済活動の再開に伴い財の前年比は減少幅が縮小しているが、飲食サービスを中心に、低調な動きとなっている。観光は、大幅に悪化した状態が続いているものの、足もとでは持ち直しの兆しがみられる。設備投資は、大型投資が一服しているほか、非製造業を中心に収益環境の悪化を受けた経費節減の動きがみられることから、減少している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、公共施設の建築工事や高速道路関連工事などを中心に増加している。こうしたもと、生産は、持ち直しの動きがみられる。また、雇用・所得環境をみると、新型肺炎の影響により、労働需給・雇用者所得ともに一段と弱い動きとなっている。

今後については、当面、新型肺炎の影響から悪化した状態が続くとみられるが、経済活動が再開していくもとで、徐々に改善していくとみられる。こうした中、新型肺炎の帰趨、政府等が打ち出している各種経済対策の効果、米中間の貿易摩擦を含む海外経済の動向、それらが管内経済に与える影響等に注視していく必要がある。

【前回からの変化】

総括判断	個人消費	観光	設備投資	住宅投資	公共投資	生産	雇用・所得
▲	→	▲	▲	→	→	▲	→

- ▲ 前回から改善度合いが強まっている、または悪化度合いが弱まっている。
- 前回から変化なし。
- ▲ 前回から改善度合いが弱まっている、または悪化度合いが強まっている。

News Release

財務省 近畿財務局
大津財務事務所

令和2年10月28日

滋賀県内経済情勢報告

(令和2年10月判断)

1. 総論

【総括判断】 「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる」

項目	前回（令和2年7月判断）	今回（令和2年10月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるものの、足下では下げ止まりの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	▲

（注）令和2年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は弱い動きとなっている。

【主な項目の判断】

項目	前回（令和2年7月判断）	今回（令和2年10月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさが続いているものの、足下では持ち直しの兆しがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	▲
生産活動	一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	▲
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	→
設備投資	2年度は前年度を下回る見込みとなっている	2年度は前年度を下回る見込みとなっている	→
企業収益	2年度は減益見込みとなっている	2年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなかで、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向等を注視する必要がある。

《ご参考③：近畿の景気動向》

(2020.9.7：内閣府「地域経済動向」)

(8) 近 畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

	前回（令和2年5月）	今回（令和2年9月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

《当報告書のご利用についての注意事項》

- ・ 当報告書は情報提供のみを唯一の目的として作成されたものであり、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
- ・ 当報告書は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行並びに当社はその正確性を保証するものではありません。内容は、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。
- ・ また、本報告書は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。
- ・ なお、本報告書の内容に関するご照会は下記の担当者までご連絡ください。

照会先：(株)しがぎん経済文化センター（産業・市場調査部：志賀）

T E L：077-523-2245 E-mail：keizai@keibun.co.jp

以 上